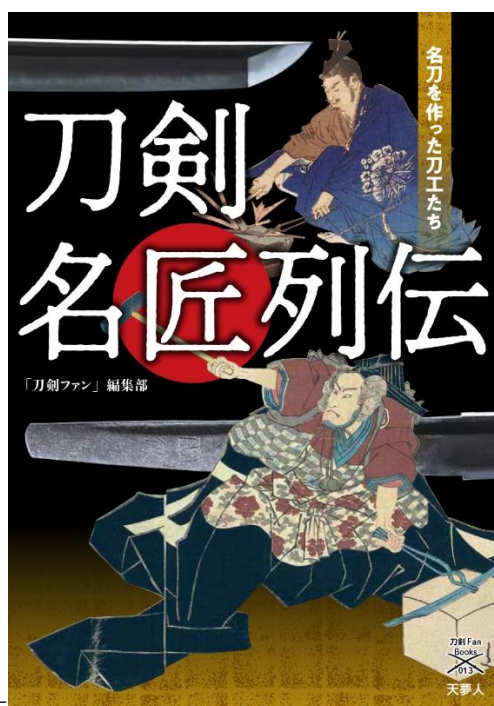


各 位

2023年11月10日
株式会社天夢人

刀剣史を代表する名刀を鍛え、美と技を極めた匠たちの物語。
刀剣ファンブックス 013『刀剣名匠列伝 名刀を作った刀工たち』発刊

インプレスグループで鉄道・旅・歴史メディア事業を展開する株式会社天夢人(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:藤岡 功)は、2023年11月10日に、刀剣ファンブックス 013『刀剣名匠列伝 名刀を作った刀工たち』を刊行いたしました。



国宝、重要文化財指定など数多く、日本の宝といえる日本刀。それぞれに魅力を放つ名刀を作った刀工たちを紹介する本です。

1000年以上の歴史を持ち、その美と技の伝統を守り伝えてきた日本刀。貴重な日本の宝であるそれらの名刀を作った刀工たちとは、どのような人たちだったのか。平安時代の古刀から新々刀の江戸・明治時代までに活躍した名工と名刀を年代ごとに主要約40人を紹介。それぞれの刀工の作風や特徴、流派や生きた時代背景などを紐解きながら、一振り一振りに魂を込

めて鍛錬した名工たちの知られざる生きざまに迫ります。刀剣鑑賞をする上で刀工たちの作風や特徴などの理解をより深められるはずです。

【内容見本】

◎古刀編より・刀鍛冶の祖とも讃えられた名匠／伯耆安綱

古刀編から新々刀編までの時代順に各刀工の基本情報と代表作、その歴史や流派などを紹介。



伯耆の地に立つ古刀鍛冶の祖・伯耆安綱の生誕地(伯耆町教育委員会「伯耆の歴史の文化財」より転載)

日本刀革新期に活躍する
山陰地方の豪族・大山の西麓である鳥取県西伯耆郡香取町大原。かつては伯耆国大原と呼ばれたこの地域を拠点に、平安時代中期に活躍したと伝えられる刀工が安綱だ。

直刀であった日本の刀剣に反りをもつ「日本刀」が登場したのは平安時代中とされる。反りが加わり湾曲したことで、日本刀は一柄れず、曲がらず、よく切れるという絶大な長所を手に入れたのだ。安綱はそうした反りを最初に考案した刀工とされていて、そのため「日本刀の祖」とも称される。

しかし、安綱の詳しい経歴は不明で、生涯年もよくわかっていない。およそ平安時代中期の頃といわれているが、活動年代については、平安時代初期にあたる大同年間(860-869)、弘仁年間(810-824)、平安時代中期の水延年間など、いくつかの説が唱えられている。平安時代中期が定説にされている。安綱の現存刀が、水延年間頃のものとされる三宗近のものと比べる、やや新しく見えるからである。



伯耆安綱の祖とも讃えられた名匠

まき切安綱を手に大山山の湯野童子を運ぶる安綱丸を理いた武蔵伯耆(備前赤松市史記)

データ&代表作

生没年	不明	刀工 安綱(名物 童子切安綱)
出生地	不明(大和国、九州・福岡など複数あり)	刀工 安綱(名物 童子切安綱)
居住地	伯耆国大原(鳥取県西伯耆郡香取町大原)	刀工 安綱(名物 童子切安綱)
作刀地	同上	刀工 安綱(名物 童子切安綱)
活動期	平安時代中期	刀工 安綱(名物 童子切安綱)
系	伯耆・安綱流	刀工 安綱(名物 童子切安綱)
期	大原安綱・大原三郎大夫・大原五郎大夫	刀工 安綱(名物 童子切安綱)
鑑	安綱	刀工 安綱(名物 童子切安綱)
指	鑑定1 / 鑑文A	刀工 安綱(名物 童子切安綱)
鑑	名物1 / 日本三名匠	刀工 安綱(名物 童子切安綱)

◎古刀編より・伯耆安綱／豪壮かつ伝説の名刀

各刀工の代表作の刀剣を刃文や地鉄(じがね)の特徴を拡大写真などで解説します。

「童子切安綱」は、平安時代中期に活躍したと伝えられる刀工が安綱だ。直刀であった日本の刀剣に反りをもつ「日本刀」が登場したのは平安時代中とされる。反りが加わり湾曲したことで、日本刀は一柄れず、曲がらず、よく切れるという絶大な長所を手に入れたのだ。安綱はそうした反りを最初に考案した刀工とされていて、そのため「日本刀の祖」とも称される。

豪壮かつ優美な伝説の名刀

新巻材製の中かきと彫られた刃文は対称から刃先へよど足が入り、縁に細く金筋がわかる(細い地鉄)

包帯は小指先、心かき(対称の縁彫)は縁(縁やなす)と、童子(刃の刃先)が小さく見える(小指先)

「童子切安綱」は、平安時代中期に活躍したと伝えられる刀工が安綱だ。直刀であった日本の刀剣に反りをもつ「日本刀」が登場したのは平安時代中とされる。反りが加わり湾曲したことで、日本刀は一柄れず、曲がらず、よく切れるという絶大な長所を手に入れたのだ。安綱はそうした反りを最初に考案した刀工とされていて、そのため「日本刀の祖」とも称される。



刀鍛冶を育んだ大原の地・伯耆国

刀鍛冶を育んだ大原の地・伯耆国。伯耆国大原の豪族・大山の西麓にあり、かつては伯耆国大原と呼ばれたこの地域を拠点に、平安時代中期に活躍したと伝えられる刀工が安綱だ。

◎新刀編より・明寿と並ぶもう一人の新刀の祖／堀川国広
 新刀編も代表的な各刀工の基本情報と代表作、その歴史や流派などを紹介。



堀川の藩校に日本刀を制作した足利学校(栃木県足利市)

堀川国広

明寿と並ぶもう一人の新刀の祖



出身地である足利市津島区津島町の公園に建つ堀川国広の銅像

一刀工責任者	
生没年	享徳4(1534)年?～慶長19(1614)年
出生地	日向国臼杵(吉崎県日南市現)／ 尾道藩 尾道藩(京都府上京区南町)
居住地	同上
作刀地	同上
活動期	安土桃山時代～江戸時代前期
系統	山城・堀川派
別称	脚原国広、鉄砲庵
銘	日守兼左衛門、天保兼主直、信時兼直、兼直
指定	国文15／慶長19
備考	新刀の祖

いくつか説があり、紙肥の城主・伊東家に仕えた人物で、刀道でもあり、また山伏でもあったなどいわれている。国広はそんな父親のもとで鍛冶を修め、天正4(1576)年には日向国臼杵(吉崎県津島町)に日向国古市(吉崎県津島町)に作りかたをたのべている。

天正18(1590)年2月に、下野国(栃木県)の足利学校で作刀し、足利城主・長尾重隆のために「出陣切」を作っている。この刀は、薩長が「脚原国広」を名にした。北條氏から降参した徳川頼房の太刀を拵たものだった。

国広が作刀した刀は、東の足利まで出陣したのがよくわかっていないが、「上洛した人」を扱ったため、鑄を置いて開元した。天正一十九(1614)年に九州出身の足利学校の校長と交流があり、国広が明寶製に精通していたので、鑄師として足利に招聘されたなどといった説がある。

晩年は京都に定住して、作刀と門弟の育成に勤む。同年7月、国広の人生は静かに幕を閉じた。

◎新刀編より・刀工秘話／天正遣欧使節の正使と堀川国広との深い関係
 刀工たちの知られざるエピソードなどを「刀工秘話」コラムでも解説しています。



堀川の主要にある伊東マンシンの銅像(京都市西京区)

天正遣欧使節の正使と堀川国広との深い関係

刀工秘話

九州のキリシタン大名の大村輝一(大友義隆)は、天正10(1582)年、イエズス会宣教師パリーニョの勧めにシカゴ、ロマンシヨと国広の間に深い関係があった。天正遣欧使節で、その正使が伊東マンシヨ(島千代)だ。

マンシヨと国広の間に深い関係があったのは、天正5(1579)年に、伊東マンシヨが当時8歳だったマンシヨのお守り役を務めて連れて来ているのだ。

使節はスペイン、ローマを回った。天正18年に長崎に帰郷するにあたり、マンシヨと再会していた可能性はある。



堀川国広の作刀した天正遣欧使節の正使の佩刀(京都市西京区)

た、流離になつたという話も伝えられている。また、「松山藩」という銘が切られた刀も見つかった。国広の真作と確認されたものではない。ただし当時、刀工が職場に従って刀の修理などを行うことは珍しくない。このことでは、国広は三城に招かれていたのかもしれない。

彼の朝鮮出兵への参軍もあり、彼の刀は、秀吉にその後江戸に、彼の刀は、一丁半に知り、天正遣欧使節で、その命を受けて九州に下り、太閤様山で作刀して朝鮮入密を行った。

天正18(1590)年頃には、三城の命を受けて九州に下り、太閤様山で作刀して朝鮮入密を行った。



1598年にドイツのアムステルダムで印刷された、天正遣欧使節の月報。上：伊東マンシヨ(京都大学附属図書館蔵)

【目次】

●古刀編

- ・刀鍛冶の祖とも讃えられた名匠／伯耆安綱
- ・刀剣史に大きな足跡を残す巨匠／三条宗近
- ・「友成」と並ぶ古備前の名匠／古備前正恒
- ・日本刀の最高傑作を鍛えた名匠／古備前包平
- ・明治時代まで続いた波平派の祖／波平行安
- ・相州伝の礎を築いた京の名工／栗田口国綱
- ・福岡一文字派の事実上の祖／一文字則宗
- ・福岡一文字派の頂点に立つ名工／一文字吉房
- ・多くの武士を魅了した短刀の名手／栗田口吉光
- ・長船派の礎を築いた名工／長船長光
- ・大和五派・手搔派の祖／手搔包永
- ・大和五派・尻懸派の実質的な祖／尻懸則長
- ・謎に満ちた来派中興の祖／国俊(来国俊)
- ・戦乱の時代を生き抜いた来派の名匠／来国光
- ・相州伝の実質的な創始者／新藤五国光
- ・長船派の黄金時代を築いた名匠／長船景光
- ・相州伝を大成した日本刀中興の祖／五郎入道正宗
- ・「相伝備前」を生んだ変革者／長船兼光
- ・山城鍛冶に新風を吹き込んだ名工／長谷部国重
- ・筑前鍛冶を一変させた改革者／左文字
- ・正宗に学んだ美濃伝の創始者／志津兼氏
- ・正宗十哲の筆頭にして「天下三作」／郷(江)義弘
- ・戦国の世に斬れ味を追求した名工／千子村正
- ・肥後・同田貫派の祖／同田貫正国
- ・「関の孫六」として知られる名工／孫六兼元
- ・「之定」と呼ばれた美濃の名匠／和泉守兼定

●新刀編

- ・新刀の開祖となった当代随一の金工／埋忠明寿
- ・肥前刀ブランドを確立した名工／肥前忠吉
- ・明寿と並ぶもう一人の新刀の祖／堀川国広
- ・将軍家抱え工に上りつめた名匠／越前康継
- ・虎徹と並ぶ江戸新刀の双璧／野田繁慶
- ・「新刀随一の刀匠」と呼ばれた名工／長曾祢虎徹
- ・菊の紋章を許された大坂新刀の雄／井上真改

- ・「大坂新刀の三傑」の一人／津田助広
- ・彫物を得意とした大坂新刀の名工／一竿子忠綱
- ・一葉葵紋を許された薩摩新刀の名匠／一平安代

●新々刀編

- ・古伝を究めた「新々刀」の創始者／水心子正秀
- ・「江戸三作」に数えられた巨匠／大慶直胤
- ・絶頂期に自刃を遂げた天才刀工／源清麿
- ・鏡師としても活躍した清麿の門弟／栗原信秀
- ・皇室技芸員に任命された名匠／月山貞一

【書誌情報】

書名: 刀剣ファンブックス 013『刀剣名匠列伝 名刀を作った刀工たち』

仕様: A5判 160ページ

定価: 2,530円 (本体 2,300円 + 税 10%)

発売日: 2023年11月10日

全国書店、オンライン書店のAmazonなどで発売中。

<https://amzn.to/45HY8lk>

【刀剣ファンブックスとは】

「刀剣ファンブックス」は日本刀の歴史や文化をさまざまなテーマで紐解く書籍シリーズです。以下のラインアップが刊行中です。

- ・001『日本刀入門 この一冊で魅力がわかる』「刀剣ファン」編集部 2,200円(税込)
- ・002『刀装具 新・解体新書』生田享子 2,420円(税込)
- ・003『日本刀が見た日本史 深くてももしろい刀の歴史』「刀剣ファン」編集部 1,980円(税込)
- ・004『名刀にあえる美術館・博物館・神社 国宝・重要文化財級の名刀鑑賞を楽しもう』「刀剣ファン」編集部 2,310円(税込)
- ・005『ビジュアル刀剣用語事典』「刀剣ファン」編集部 2,200円(税込)
- ・006『戦後日本刀事件史』土子民夫 2,090円(税込)
- ・007『国宝刀剣』「刀剣ファン」編集部 2,530円(税込)
- ・008『刀剣一問一答』誉田 優 1,980円(税込)
- ・009『刀装具 新・解体新書 2』生田享子 2,530円(税込)
- ・010『写真でわかる刀の見方・鑑賞の極意』松本啓之亮 2,750円(税込)
- ・011『日本全国名刀ファイル 国宝から郷土の名刀まで』住 麻紀 2,530円(税込)
- ・012『日本刀ドリル 刀剣知識にチャレンジ』「刀剣ファン」編集部 2,420円(税込)

【株式会社天夢人】 <https://www.temjin-g.co.jp/>

2007年設立。隔月刊雑誌『旅と鉄道(奇数月21日発売)』をはじめとする、鉄道・旅・歴史・民俗・カルチャーをテーマとした雑誌や書籍を発行し、人生を豊かにするための情報を発信しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:松本大輔、証券コード:東証スタンダード市場 9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社天夢人 担当:野口

Tel: 03-6837-4680 / E-mail: info@temjin-g.co.jp

URL: <https://www.temjin-g.co.jp/>